

北上市総合計画 2021～2030 令和6年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和5年度）

基本方針	1.未来に輝く人づくり
基本施策	1-2.子どもの健やかな成長を守る環境づくり
関連するプロジェクト	1.子育て寄り添いプロジェクト

将来の社会の主役となる子どもたちが安心して成長できるよう、市全体で子どもの最善の利益の実現に努め、関係機関と一層の連携を図り、家庭と子ども一人ひとりに最適な支援を継続的に行います。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

総合評価
A

※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

R6事後
2

No.	担当部等	プロジェクト	推進方針		成果指標	達成状況(対象:R5) (上段:指標に基づくもの 下段:指標以外のもの)	達成状況 評 価	達 成 状 況 分 析 (上段:指標に基づくもの 下段:指標以外のもの)		今後の方向性 (◇:R6に着手予定・着手済み ◆:R7以降の着手を検討)
								内部要因	外部要因	
1	健康 こども部	●	子育て世代包括支援事業	妊娠期から子育て期まで切れ目なく支援する母子保健機能と子ども虐待の発生防止・早期発見等を行う児童福祉機能を一体的に運営していく「こども家庭センター」を拠点として、様々な事情を抱える妊産婦・乳幼児等の状況を継続的・包括的に把握し、保健師等の専門職が妊産婦や保護者の相談に対応するとともに、支援プランを策定し関係機関との情報共有や検討を行い適切な支援につなぐ。 保健師等の母子健康手帳交付時の面接、要支援妊婦の訪問指導をはじめ、新生児訪問・乳幼児訪問を通し安心して育児しているよう伴走型の支援を行う。関係機関との一貫性・整合性のある支援につなげるため、連携体制を強化する。	①	新生児訪問指導割合は令和4年度より増加しており、期待値も上回っている。	A (A)	出産後は全産婦へ電話確認を行い、希望者全員に訪問指導を行っている。	新型コロナウイルスによる影響もあり、訪問指導を希望しない人もいる。	◇継続して事業を実施。
						支援が必要な人へ支援プランを作成し、妊娠期から切れ目のない支援を実施できている。 関係機関との連携のため、年3回母子保健医療連絡会を開催している。また、必要時個別ケースの情報共有も行っている。		妊産婦リスクアセスメントシートを活用することで、支援が必要な人を判断することができ、妊娠期から切れ目のない支援を実施できている。		
2	健康 こども部		支援を必要とする子どもや家庭への支援の充実	新規利用者については事業利用の必要性を精査しながら、児童の状況に応じた支援計画を立て、個々に応じた療育を提供する。 療育専門員と連携してアドバイスを得たり、職員各自が研修に参加したりするなど専門性の向上に努めると共に、公認心理師等の資格を持つ常勤職員の採用などマンパワーを確保し支援体制を整備する。 障がい児の支援に対応するため、幼稚園や保育所等における人員体制及び保育者への研修の充実を図り、小学校へのスムーズな移行ができるよう支援が必要な子どもたちの発達を促す。	②⑦	児童発達支援事業の利用者の満足度は増加し、期待値を上回った。	A (A)	研修等により療育の質の向上が図られたことが満足度向上につながった。		◇定期的に研修機会を確保し、資質向上に努めていく。 ◇専門職を確保し支援体制を整備していく。 ◇児童福祉法の改正(令和6年4月1日施行)に合わせ中核的役割を果たすよう機能強化を図る。
						施設内外の研修機会を確保した。 また、北上市こども療育ネットワークの運用開始により、事業所選択及び見学予約ができ、早期に療育を開始できる仕組みを構築した。		研修によって職員の専門性を高め、また北上市こども療育ネットワークの運用開始によって、早期に個々に応じた療育を開始できる環境を整えたことが、療育の質向上につながった。		
3	福祉 部		生活に困窮している子どもへの学習支援の充実	子どもの貧困対策の推進を図るため、学習支援事業の事業内容や開催場所に対するニーズ把握を行うとともに、「子どもの居場所事業」を行う団体と連携し、開催場所、回数等参加しやすい環境を整備する。	未設定		B (B)			◇新たな利用登録者の掘り起こし、特に中学生を対象とした取り組みが必要であり、興味を引く場所で試行的に開催し、参加体験の機会を設けることを検討する。 ◇今年度は試行として夏休み期間、冬休み期間にhoKkoを会場として実施し、参加者の感想・意見を基に次年度以降の事業を企画する。 ◆試行を踏まえた事業企画において、対象者の興味を引き、利用登録者の増加に効果的な会場と日時を検討する。 複数会場での開催、開催回数の増加には、制約要件として学習ボランティアの確保が課題である。
						・学習支援事業を平日、土曜日、夏休み及び冬休みに開催した。特に土曜日等は子ども食堂と同時開催した。 ・参加者延べ人数が増加した一方で、利用登録者数は伸び悩んでいる。 ・事業に参加したことにより希望する学校に進学できたり、事業に参加し進学した高校生が学習ボランティアとして活動に参加するなど、事業の成果が出ている。		・参加者、保護者へのアンケート調査では、概ね現在の事業内容や開催場所に満足している内容であり、現在の参加者に対しては参加しやすい環境を提供出来ている。 ・一方で平日(木曜日17:00～19:00)の参加者が少なく、また参加者が固定化している。 ・利用登録者数については、特に中学生の登録が低調である。利用登録者数が伸び悩んでいるのは、現行の開催場所、開催日が本来の対象者の希望、生活サイクルと合わなくなっていることが考えられる。 ・新型コロナウイルス感染症への不安がなくなってきた。		
4	健康 こども部		「子どもの居場所づくり」に対する支援の充実	「子どもの居場所づくり」を行っている団体からの意見や運営に係る収支状況を確認しながら、今後どのような支援が必要か検討する。	③	・子どもの居場所づくりに取組む「子ども食堂」の開催場所数は、期待値を達成している。 ・当市の事業を利用して開設した団体が活動が続いているため、収支状況の確認を行い、必要に応じて助言を行った。	A (B)	当市の事業を利用して開設した団体が活動を続けていく中で、子ども食堂の取組みが徐々に市民に認知され、新たな団体の活動に繋がっていると考えられる。		◇今後も団体からの意見や運営状況の把握に努める。
						既存の団体は、フードパントリーなど工夫した取り組みを実践していた。			新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、徐々に開催回数が増えてきている。	
5	健康 こども部	●	児童虐待の発生防止・早期発見・対応	子どもやその家庭の支援及び家庭児童相談機能を充実させるために、こども家庭センターを設置し、支援体制の強化を図るほか、児童相談所、警察、保健医療機関等関係機関の更なる連携強化により児童虐待の発生防止・早期発見と適切な対応に取り組む。 また、子育てに困難を抱える世帯への訪問支援を検討する。	④	児童虐待により死亡に至った件数は無い。	A (A)	死亡に至る重大事案とならない様、関係機関と連携しながら適切に支援を実施した。		◇児童福祉法の改正(令和6年4月1日施行)により、市は支援対象者(要支援児童、要保護児童等)に対し、支援対象者の意向、解決すべき課題、支援の種類及び内容等を記載したサポートプランを作成することが義務付けられたことから、支援対象者について順次サポートプランを作成していくこととします。
						令和5年度における新規虐待ケースは57件、年度末における全体ケース世帯数は49世帯(前年度3月末41世帯)である。		支援拠点を中心に関係機関と連携を図りながら支援を実施している。		

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針		成果 指標	達成状況(対象:R5) (上段:指標に基づくもの 下段:指標以外のもの)	達成状況 評 価	達 成 状 況 分 析 (上段:指標に基づくもの 下段:指標以外のもの)		今後の方向性 (◇:R6に着手予定・着手済み ◆:R7以降の着手を検討)
								内部要因	外部要因	
6	健康 こども部		子どもの 貧困対策 の推進	進路や教育の希望が叶えられる環境の整備、相談体制の充実、経済的支援の充実、保護者の就労の支援など、子どもの貧困対策に関する具体的施策の推進を図るほか、子どもの権利を保障する方策について検討する。	⑤	※令和5年度調査未実施	B (B)			◇相談支援体制は継続して、こども家庭センターを総合相談窓口として、相談支援を行う。 ◇第2期子ども・子育て支援事業計画において位置付けられた子どもの貧困対策施策について、継続して取り組む。 ◇子どもの権利を保障する方策について、こども計画の中で整理する。
						・第2期北上市子ども・子育て支援事業計画に位置付けられた子供の貧困対策事業について取り組んだ。 ・子育て世代包括支援センターにおいて、貧困家庭に限らず子育て世帯の相談等に幅広く対応した。 ・子どもの権利を保障する方策については検討できていない。 ・国の多様な給付金を支給し、低所得の子育て世帯の経済的支援を行った。		・具体の施策として、第2期子ども子育て支援計画に位置付けられた教育支援、生活支援、生活支援、経済的支援、就労支援の活動に取り組んだ。 ・相談体制の充実にあたっては、子育て世代包括支援センターが総合相談窓口となって関係部署につないでいる。 ・多子世帯応援給付金がお金のかかる多子世帯の一助となっている。	新型コロナウイルス感染症に伴う景気の低迷によるためか、子育て世帯の貧困に伴う家庭相談が増加傾向にある。	
7	健康 こども部		ひとり親 家庭等へ の自立支 援の推進	ひとり親家庭等に対する相談体制の充実を図るとともに、「児童扶養手当」「ひとり親家庭医療費給付」など経済的支援を実施する。また、生活の安定と自立を支援するため、父・母の就職や資格取得を促進するための給付金を支給する。	⑥	※令和5調査未実施	B (B)			◇児童扶養手当、ひとり親家庭医療費給付、高等職業訓練促進給付金の支給等を継続して行う。 ◇ひとり親に対する相談支援の充実にあたり、あるべき姿を検討するため、他市の事例を研究する。
						・ひとり親に対し、児童扶養手当、ひとり親家庭利用費給付などを実施し、経済的負担の軽減を図った。 ・ひとり親の就労や資格取得を促進するため、高等職業訓練給付金等を支給した。 ・低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金(ひとり親世帯分)を支給し、コロナ禍で困窮するひとり親家庭の経済的支援を行った。		・各種事業については、滞りなく実施し、ひとり親家庭を支援している。 ・児童扶養手当の現況届のタイミングに合わせ、県の自立支援員による相談対応、ハローワークの就業相談の窓口を開設し、ひとり親家庭が相談しやすい環境を整備した。	ひとり親の資格取得に係る給付金は、前年並みに申請があった。	

凡例  実績値  期待値

指 標 ①		指標の説明								指 標 ②		指標の説明								指 標 ③		指標の説明							
新生児訪問指導割合		年間出生数に占める赤ちゃん訪問指導を実施した割合								児童発達支援事業(こども療育センター)の利用者の満足度		通園児保護者の中で総合的な利用満足度に「満足している」と回答した率								子どもの居場所づくりに取組む「子ども食堂」の開催場所		食事の提供や学習支援等を行う子どもの居場所の開催場所の数							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
健康こども部	%	実績値	60.9	44.1	56.6	73.2	89.9			健康こども部	%	実績値	81.3	83.8	78.6	87.3	88.1			健康こども部		実績値	4	4	4	5	6		
		期待値 ※R7は目標値	60.9	61.6	62.3	63.0	63.6	64.3	65.0			期待値 ※R7は目標値	81.3	81.9	82.5	83.2	83.8	84.4	85			期待値 ※R7は目標値	4	4	5	6	6	7	8
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ④		指標の説明								指 標 ⑤		指標の説明								指 標 ⑥		指標の説明							
児童虐待死亡事案件数		福祉行政報告例年度報 第45児童相談種別対応件数の児童虐待相談として受理した件数のうち、児童が死亡に至った件数								子どもの貧困率		北上市子どもの生活実態調査で調査した所得をもとに、厚生労働省が平成28年国民生活基礎調査から算出された日本国内の等価可処分所得(世帯の可処分所得(手取り収入)を世帯人数の平方根で割り調整した所得)の中央値の2分の1である122万円を基準額とし、基準値を下回る世帯を貧困層とし、全体に占める割合を算出したもの。								ひとり親世帯の貧困率		北上市子どもの生活実態調査で調査したひとり親世帯の所得をもとに、厚生労働省が平成28年国民生活基礎調査から算出された日本国内の等価可処分所得(世帯の可処分所得(手取り収入)を世帯人数の平方根で割り調整した所得)の中央値の2分の1である122万円を基準額とし、基準値を下回る世帯を貧困層とし、全体に占める割合を算出したもの。							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
健康こども部	件	実績値	0	0	0	0	0			健康こども部	%	実績値	9.6							健康こども部	%	実績値	41.6						
		期待値 ※R7は目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0			期待値 ※R7は目標値	9.6	9.6	9.6	9.6	9.5	9.5	9.5			期待値 ※R7は目標値	41.6	41.6	41.6	41.6	41.5	41.5	41.5
		備 考										備 考		未実施	未実施	未実施	未実施	調査予定	以下			備 考		未実施	未実施	未実施	調査予定	以下	
指 標 ⑦		指標の説明								指 標 ⑧		指標の説明								指 標 ⑨		指標の説明							
幼稚園・保育園・認定こども園での障がい児保育の実施園		障がい児・支援児が入園を希望した場合に、加配の職員を配置するなどして、受入を行う施設の割合。								-																			
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
健康こども部		実績値	全園	全園	全園	全園	全園					実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値							全園			期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ⑩		指標の説明								指 標 ⑪		指標の説明								指 標 ⑫		指標の説明							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							
指 標 ⑬		指標の説明								指 標 ⑭		指標の説明								指 標 ⑮		指標の説明							
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7
		実績値										実績値										実績値							
		期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値										期待値 ※R7は目標値							
		備 考										備 考										備 考							